


「企業の**森**」かわら版


WINTER 2021


No.1




企業の森の「いま」

3・・・2020年秋冬の企業の森の様子 

4・・・企業の森で見られた動物たち 


5,6・・・植栽から10年経った企業の森 

7・・・東京都森林組合より

「樹木を脅かす虫？」の話 

花粉の少ない森づくり運動 News & Information

8・・・ドローンを使用した

森の見回りをスタート 

8・・・日本事務器（株）

下刈り体験イベント報告 



企業の森の「いま」

2020年秋冬の企業の森の様子



読売の森 ー青梅市ー 協定から3年目



企業の森・あくなき創造の森
(サトーホールディングス)
ーあきる野市ー 協定から1年目

立派な森に育ったね！



サントリー天然水の森
ー西多摩郡ー 協定から10年目



企業の森見回り状況



富士通グループ・あきる野 企業の森
ーあきる野市ー 協定から5年目

山からの湧水は最高～♪♪



企業の森・日立キャピタルグループの森
ー八王子市ー 協定から1年目



企業の森で見られた動物たち

ここ最近、ニュースで目にする通り、全国各地で動物の出没が相次いでいます。特に最も狂暴とされているツキノワグマの出没情報は、全国で1万件以上寄せられています。最高警戒レベルを出したり、警戒レベルを引き上げたりした県もあります。出没する状況はここ数年、常態化しています。過疎化や高齢化が進み、人が森を使わなくなったため、ツキノワグマが住む地域が広がったことが要因の一つと言われています。

これはツキノワグマに限った話ではありません。「企業の森」にも勿論、その他にイノシシ、ニホンザル、ニホンジカ、タヌキと様々な動物たちが住んでいます。見た目にはかわいらしいですが、企業の森にとってはせっかく植えたスギやヒノキを食べたり、倒したり、角を研いだりと頻繁ではないものの問題があるのが現状です。

これを阻止するために、企業の森では場所により「単木ネット ※写真1」や「獣害防護柵」を設置しています。ネットや防護柵を設置することにより食害や倒木を未然に防ぐことがねらいです。実際に今年8月と10月の二回「ネットヨタ多摩プリウスPHVの森（青梅市）」においてシカが防護柵に絡んだ事例が発生しました。 ※写真2

花粉の少ない森づくり運動では、林業事業者（森林整備を行う企業）からの情報を日頃より収集し、動物を見かけたとの情報があった場合は、巡回を強化し、場合によってはこのようなネットや防護柵を設置することを行い、動物たちによる被害を最小限に食い止められるよう努めています。



※写真1 単木ネット



※写真2 シカが防護柵に絡んだ事例



🌲 植栽から10年経った企業の森① 🌲

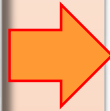
企業の森が植栽から10年経ち、かわいらしかった「新生児」から驚くほどの早さで「子供」へと大きく成長した様子をご紹介します。

10年経過後、11年目以降も延長する企業があり、「子供」から「大人」への成長も見守りたいとのお声をいただいております。

～ 新宿の森（あきる野市） ・新宿区 2010年3月 協定締結 ～



2011年11月 植栽終了後



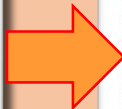
2020年12月 見回り撮影

～ サントリー天然水の森（西多摩郡）

・サントリーホールディングス株式会社 2010年3月 協定締結 ～



2010年5月 植栽終了後



2020年11月 見回り撮影

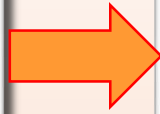


植栽から10年経った企業の森②

～ 企業の森・東栄住宅（あきる野市） ・株式会社東栄住宅 2010年7月 協定締結 ～



2011年9月 植栽終了後



2020年10月 見回り撮影

～ 企業の森・カナデン（青梅市） ・株式会社カナデン 2010年8月 協定締結 ～



2011年7月 下刈りイベント後



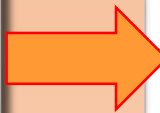
2020年11月 見回り撮影

～ 美しい多摩川フォーラムの森（青梅市）

・美しい多摩川フォーラム・青梅信用金庫 2010年9月 協定締結 ～



2011年9月 植樹イベントの風景



2020年12月 見回り撮影

東京都森林組合より「樹木を脅かす虫？」の話

「カシノナガキクイムシ（※写真1）」という虫をご存じでしょうか？

2020年11月、企業の森の体験イベントの際にイベント指導員をお願いした東京都森林組合の竹内希美重さん（樹木医）よりカシノナガキクイムシ（以下、カシナガ）のお話がありましたのでご紹介します。

その名の通り木を食べる虫で、体調は約5mmほど。樹木の幹の奥深くに孔道（トンネル）を掘り、その孔道に菌類を持ち込み栽培した後に摂取します。その影響により感染した部分の細胞が死ぬと、道管が目詰まりを起こすため根から吸い上げた水が葉に届かない通水障害を起こすため枯死します。枯死する樹木は主にナラ類（ミズナラ、コナラなど）で古い樹木ほどカシナガに狙われるとのことのお話でした。

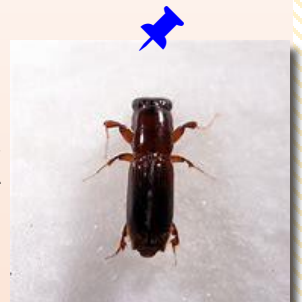
当日、実際にカシナガの被害にあったコナラを見せていただきましたが、カシナガが掘った孔道からは大量の白い虫糞と木屑（フラス※写真2）が溢れ出ていたのが確認できました。

この被害は各地で拡大しており、竹内さんのお話によると東京都町田市のコナラは相当被害が拡大しているとのこと。なんとも恐ろしいお話です。さらに竹内さんは、「この現象は人間の生活様式の変化が原因の一つに挙げられる。燃料として薪を使用していた生活から現在では石油、ガス、電気中心の生活にかわってしまいコナラのような広葉樹を使う頻度が下がってしまったことで、人間のかわりにカシナガが古い木を再生してくれているのかも知れない。」と、木の有効活用を提唱しました。

そして、「このカシナガの現象を見ると、自然界は私たちが考えている以上に大きなサイクルで回っている。自然は人間の手だけで何とかできるものではないと実感している。」と、長年の林業経験で培われた貴重なコメントでこの体験イベントを締めくくっていただきました。

環境的な要因によって自然界で生き残る様を見て、私たちも健全な森（自然）を未来に引き継いでいくために、カシナガのような環境に応じた生活を考えなければならないと実感させられた竹内さんの有意義なお話でした。

竹内さん、大変ありがたいお話とご指導ありがとうございました。



※写真1
カシノナガキクイムシ



※写真2 木屑（フラス）



以前は燃料として資源利用されていた薪

花粉の少ない森づくり運動

News & Information



🌲 ドローンを使用した森の見回りをスタート 🌲

2020年12月より無人航空機ドローンを使用した企業の森の見回りをスタートしました。

これまでの企業の森の見回りは、実際に山を登り植栽した木々や獣害防護柵の状況を確認する以外の方法はありませんでした。

しかし、ドローンを使用することでそれらの画像を山を登らず確認できるというメリットがあります。

また、撮影した動画はパソコンへ取込むことで拡大して見ることが出来、効率的な確認作業が可能になります。



[ドローンでの見回り動画をご覧ください](#) 

🌲 日本事務器（株） 下刈り体験イベント報告 🌲

日本事務器（株）の「社員の皆さま」による今年度唯一の下刈り体験イベントを2020年11月に行いました。

当日は秋晴れに恵まれ、新型コロナウイルス感染症対策を万全に期した中、東京都森林組合のご指導のもと皆さまには下刈りとツル切りを体験していただきました。整備したエリアはとても綺麗になり木々たちも喜んでいるように見えました。大変お疲れさまでした。



公益財団法人 東京都農林水産振興財団
Tokyo Development Foundation for Agriculture, Forestry and Fisheries

次号はSPRING 2021 No.2を発行します。